

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・視写する力、聞き取ったことを整理して書く力、自分の考えを表現する力等の個人差によって、学習の進み方に差が出ている実態がある。 ・授業中知っていることや気づいたことの発表には意欲的だが、自主的な学習を続けること、自分の考えを広げ深めることに課題がある。 ・話し合いにより考えを比べたり、他の視点から考えたりすることはできるが、内容を深める学習の経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの焦点化のため、各時間の目標やその振り返りを確実に行う。「見える化」を心掛け、理解を補助する。定期的なノート点検などで振り返りの機会を増やしていく。 ・家庭学習が授業の意欲につながるような課題の工夫を行い、適切な評価によって家庭学習を習慣化させる。また、発表の機会を多く作ることで学習意欲を持たせる。 ・少人数のグループでの話し合いを定着化させるとともに、話し合いの結果を評価しあう指導法の工夫をしていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み姿勢が受け身で、毎時間の学びの質に差があるといった課題がある。 ・既習の個別的知識の意味理解はある程度できているが、概念的知識の定着レベルまでには至っていない。 ・グループ活動などの対話の場面で、深まりが見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業では、「本時の目標」「振り返り」を必ず行う。また、「PDCAシート」を活用して、単元全体の見通しをもたせる。 ・単元末にパフォーマンス課題に取り組みせ、知識を活用する機会を増やす。 ・対話をする際、目的の確認、役割の確認を行う。また、思考ツール等を活用して、思考のプロセスを共有できるようにする。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算はできるが、思考力を図る問題についての理解は不十分などところがある。 ・習熟に差がある生徒に対し基礎的内容の定着を図ると共に、それらを活用し数学的に問題解決できるよう様々な課題に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を明確に板書し、前時の復習を導入で扱い、目的意識をもって本時の授業を学ぶ意欲をもたせる。 ・視覚に訴えるような板書、ICTを活用した工夫して、説明をわかりやすくする。 ・根拠を明らかにして解法の過程を説明できるように個人追求とグループ追求を意図的に展開する。 ・毎時間の宿題プリントで家庭学習と基礎の定着を図り、習熟の早い生徒には、発展的な内容を扱う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な経験不足からくる基本概念の習得が難しい場面がある。 ・特に自然科学分野が顕著である。 ・物理的分野では身近な物理現象に対する興味・関心・経験的知識はあるので体系的に学習させ、いかに発展的内容に深めるのが課題である。 ・化学的分野では物質の特性に関して日常生活と結びつけると関心を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料や実物教材を利用し、授業1単位時間の中での体験的学習を工夫する。 ・標本等本物の教材を提示できるようにする。 ・日常生活で科学現象に関して原理原則を提示し、発展的内容を生徒同士で考察させる。（日常での現象を物理的に分析させ、定量的な数値演算を演習として取り入れる） ・化学的分野では日常生活で目にする物質の情報を教材とし、生徒間で共有させる。 	

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現」の技能は個人差や状況により変わるが、概ね良好である。今後は、より美しく考えられた表現ができるよう、指導方法を工夫していく。また、各自の主體的な学習意欲を引き出すため、身近な題材を扱い、継続的に指導する。 ・主に「歌唱」による表現活動が多くなるが、その中で様々なスタイルの音楽を学ぶ機会をもつように工夫しないと、画一的な音楽活動になってしまう。各自の音楽に対する感性を、より豊かにするために、幅のある音楽活動を展開する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法を理解していない、表せない生徒に対し、音楽の仕組みを理解し、表現を工夫する力を高めていきたい。生徒が、主体的に表現ができるよう動機づけを行い、繰り返し、表現の技能を練習させ、次の意欲を引き出していく工夫を行う。 ・のびのびと表現できる生徒は、表現の技能の向上に伴い、発展的内容に取り組みさせる。進度に個人差がないように観察をしながら、集団としての音楽的な力を高めていく必要がある。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作において、自分なりに主題を生み出して発想を広げ、構想を練ることに自信をもてない生徒がいる。 ・長期間の取り組みで完成させる作品制作では、制作意欲を維持し続けられない生徒がいる。また、粘り強く作品の質を向上させようとする態度を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを工夫し、自身の体験の中から主題を見つけることができるようにする。また、様々な作品を鑑賞する機会をつくり、豊かな発想につなげる。グループで相互に作品構想をプレゼンテーションし、構想をさらに練ることができるようにする。 ・作品制作の中で個別にアドバイスを与えて、作品の質の向上を図る。 ・制作の途中で生徒の作品を鑑賞する機会を設けて意欲を高め、また、その後の制作でのさらなる工夫のきっかけとする。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス減のため 1 コマにおける生徒数の増加により、関心意欲態度の低下がみられる学年がある。集合、整列、聞く姿勢などが大きな課題である。 ・対話的な深い学びにつなげるために、教材提示や説明内容、説明時間と話し合いの時間、運動の時間のバランスを生徒の実態に応じて計画する必要性を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の学習内容や注意点を明確にする。学習カードを見て前時の振り返りや確認をし、本字の学習内容への目標立てや関心意欲の向上を図る。 ・単元によって人数は異なるが、グループ構成をして教え合いや考える時間を確保する。グループ活動には何について話し合うのか、教え合うのかを明確にし、活動の方向性を出すように心がける。話し合い活動が多くなり、運動時間が極端に少なくならないよう、場の工夫や時間の工夫を行い、効率的に授業展開ができるようにする。 	
技術家庭	<p>〔技術〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノづくりの経験、特に成功ばかりでなく失敗もある程度経験し、そこから立ち直ることで、より良い方向を見定め、成功に向けて努力する力のあたりが、もう少し育てる余地があるかなと感じる。 	<p>〔技術〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実技の様々なアプローチと経験を大切にされた指導をする。限られた時間ではあるが、実技教科なので精いっぱい実習の時間を取り、経験を増やす。 ・そのために教材を吟味し十分に下ごしらえし、授業の効率を上げる。 	

	<p>〔家庭〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活に関心はあるが、生活の中で主体的に問題を解決する意欲は不十分などころがある。 ・衣服には関心があるが、衣生活の自立に違いがあるように思える。裁縫は苦手と知っている生徒が多い。 	<p>〔家庭〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活の自己診断をして問題点を意識させる。栄養素の働きと食品に関する基礎的な知識を活用する力がつくように課題を工夫する。 ・調理実習を通して食生活の自立や技術の向上をはかる。 ・本時の目標を伝え、内容やポイントを明確にして製作意欲を持続させる。目標が達成できたか、安全に作業できたか振り返りを行う。 	
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを繰り返し練習し、定着を図る言語活動に偏ることなく、身に付いた知識・技能を活用する場面を設定する必要がある。 ・本校の学力向上プランと連携し、英語科でもPDCAシートを活用し、各学年で指導に入る教員が共通して、その単元の目標、それを評価するパフォーマンス課題を理解する必要がある。そのための学習課題や活動を指導計画に反映させ、その振り返りを記録し、教員間で授業改善に必要なことについての共通理解をはかることに課題がある。 ・本校が目指す「学びの主体者」を育成するために、主体的な学習の手立てとなるペアやグループワークでの話し合い活動等を工夫したり、主体的な学習をサポートする辞書の活用を促す等の指導の改善が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業で、既習事項を活用した small talk や oral introduction 等を通して、状況に応じた意味のある英語でのやりとりができるコミュニケーション活動の機会を多く設定する。また、ALT との発話の機会を増やし、学習したことを伝えることを目標にするパフォーマンステストを定期的実施し、普段の授業で継続的に表現力を身に付ける活動を行う。 ・本校でのチーム研究での授業観察を定期的に行い、他教科の教員とともに授業改善について検討する。 ・ICT 等を効果的に使うことにより、身近な教材や資料等を提示し、生徒が主体的に世界に関わろうとする態度を育成できる指導を充実させる。 	